

グローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築

## 広島版「学びの変革」アクション・プラン

- コンピテンシーの育成を目指した主体的な学びの充実 -

平成26年12月

広島県教育委員会

# 《 目 次 》

## ＜ 第 1 章 総 論 ＞

I. プラン策定の趣旨	P.1
II. 将来像及び目指す姿	P.3
III. 育成すべき人材像	P.4
IV. 育成すべき資質・能力	P.5
V. これからの新しい教育の方向性	P.7

## ＜ 第 2 章 具体的な施策展開 ＞

概 要 10年先を見据えた施策展開	P.9
施策1 育成すべき人材像の具体化	P.10
施策2 課題発見・解決学習の推進	P.12
施策3 異文化間協働活動の推進	P.14
施策4 厚みのある多様な人材層の形成に向けた学校の体制整備	P.18
施策5 教員の採用育成方針の整備	P.22
施策6 県全体の機運醸成	P.28
参考① これまで提言されてきた「育成すべき資質・能力」	P.30
参考② 用語解説	P.34

# < 第1章 総論 >

---

# I プラン策定の趣旨

## <広島県を取り巻く現状>

グローバル化の進展などにより、あらゆる資源が国境を越えて行き交い、社会経済システムから一人一人の日常生活に至る広範な分野に影響 - これにより、様々な課題がますます変化・複雑化・高度化する先行き不透明な社会へ -

### 【グローバル化の影響】

**経済**

本県の貿易額、県内企業の海外進出ともに倍増(アジア地域が中心)

貿易額 [H14] **1.5兆円** ⇒ [H24] **3.0兆円** (うちアジア**45%**)  
- 財務省「貿易統計」 -

海外進出 [H14] **312事業所** ⇒ [H24] **663事業所** (うちアジア**75%**)  
- ひろしま産業振興機構「海外進出企業ダイレクトリー」 -

**生活**

本県への外国人観光客数は倍増、外国人登録者数も着実に増加

外国人観光客 [H11] **30万人** ⇒ [H24] **70万人**  
- 広島県商工労働局「広島県観光客数の動向」 -

外国人登録者 [H11] **2.8万人** ⇒ [H24] **3.9万人**  
- 法務省入国管理局「在留外国人統計」 -

**社会課題**

環境問題、大規模災害、人口問題、食糧・エネルギー問題、国際紛争など解決すべき様々な地球規模の問題が深刻化

### 【人口減少・少子高齢化の影響】

20年後には「働き手」の中心となる生産年齢人口(15~64歳)が大幅に減少

年齢構造の変化(将来推計)

(単位:万人)

区分	H22	H42	増減
総人口	286	260	▲26
65歳以上	68	84	+16
15~64歳	179	148	▲31
14歳以下	39	28	▲11

- 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」[H25.3] -

### 【参考:グローバル化による国内経済への影響】

国際市場の中心は先進国から新興国にシフトし、GDPや国際競争力など、日本の経済的地位が著しく低下

世界の人口 [H12] <b>61億人</b> ⇒ [H25] <b>72億人</b> - 総務省統計局「世界の統計2014」 -	市場拡大の規模 (H21~H27) 新興国 <b>14兆ドル</b> 先進国 <b>10兆ドル</b> 日本 <b>1兆ドル</b>	国民1人当たりGDP 日本 [H12] <b>3位</b> ⇒ [H20] <b>23位</b>	IMD国際競争力 日本 [H2] <b>1位</b> ⇒ [H22] <b>27位</b> - 経済産業省「産業構造ビジョン」[H25.5] -
---	---	---	--

## 課題

- ✓ グローバル化の進展は、都市部のみならず、中山間地域を含め、広島県全体の経済や生活に影響
- ✓ 一方で、少子化の影響により、広島県の成長・発展を支える人材の数が減少

## 進むべき方向性

- ますます変化・複雑化・高度化する諸課題の解決に向けて、現実を直視し、将来を見据えて変革に挑戦しなければ、本県の持続的な発展は困難
- 一方、新たな発想を持って変革に挑戦していけば、ピンチをチャンスに変える契機にもなる

グローバル化の進展や生産年齢人口が減少していく中で、「ピンチ」を「チャンス」に変えていくためには、「地域の成長・発展を支える人材」から「世界を舞台に活躍する人材」まで、厚みのある人材層の形成が不可欠

## 広島県の強み

- 世界に誇れる多くの「力と宝」が存在  
～ 2つの世界文化遺産、多くの島々が織りなす景観が美しい瀬戸内海、競争力あるものづくり産業の集積、原爆による破壊からの復興の歴史など ～

これらを最大限活用し、底力を発揮することで、変化に対応した新しい活力やイノベーションを生み出す可能性を秘めている

## <広島県でグローバル化する社会を生き抜くための新しい教育モデルを構築することの意義（必要性・可能性）>

- 輸出型産業の占める割合が高く、全国シェアの高い農水産品を数多く生産するとともに、2つの世界文化遺産を有するなど観光業も盛んであることから、これらの分野を支えていく人材や、イノベーションを通して、新しい産業活力を生み出すことのできる人材の育成が不可欠
- 国際協力や平和貢献に取り組むなど、「国際的発信力」の強い本県において、グローバルな視野と強い使命感を持って「持続可能な社会の構築」や「国際社会の平和と発展」に貢献する人材を育成する意義は極めて高い

## II 将来像及び目指す姿

### <ひろしま未来チャレンジビジョン(H22.10)>

#### 人づくりへの挑戦

##### 将来像

これからの本県を内外から支える人材の育成，人をひきつける就業機会の創出など全ての県民が輝く環境の整備により，人が集まり，育ち，生き生きと活躍しています

#### 教育分野

##### 目指す姿

- 子どもたちが，将来にわたってたくましく生きる力を持ち，健やかに育っています
- グローバルな感覚を持った人材が育ち，企業や地域社会などで活躍しています

##### 目標

- ◆ 将来の夢や目標の実現に必要な学力の定着・向上，健やかな体の育成
- ◆ 社会の一員としての役割意識や規範意識の醸成，豊かな社会性・主体性の育成
- ◆ グローバル社会に生きる力の育成

##### 取組の方向

- ✓ 子どもたちの更なる学力・体力の向上や豊かな心の育成に取り組みます
  - 知・徳・体の総合力でトップをねらえる児童生徒の育成
  - 特色ある教育・学校づくりの推進，教職員の資質・指導力の向上 など
- ✓ 地域ぐるみで子どもたちの健全育成を進めるため，学校・家庭・地域等の連携を強化し，地域社会の教育力向上を図ります
  - 自立心・社会性・規範意識を醸成する社会体験活動等の推進 など
- ✓ 外国の文化・言葉の理解等を通じて，グローバルな感覚を持った人材の育成に取り組みます
  - 我が国の歴史や伝統文化等についての理解を深める取組，異なる文化・生活・習慣と触れ合い理解する機会の創出
  - 外国語によるコミュニケーション能力の定着・向上

### Ⅲ 育成すべき人材像

#### <育成すべき人材像>

広島で学んだことに誇りを持ち、  
胸を張って「広島」、「日本」を語り、  
高い志のもと、世界の人々と協働して  
新たな価値（イノベーション）を生み出すことのできる人材

- ex) 広島で — 国内外のグローバル化が進展する中、**地域の成長・発展を支える人材**  
国内で — 世界中の様々な人々と協働し、**我が国の成長・発展を担う人材**  
海外で — 国境を越えて活躍し、**世界全体の発展を牽引する人材**

# IV 育成すべき資質・能力

## ＜社会の変化に対応して求められる資質・能力＞

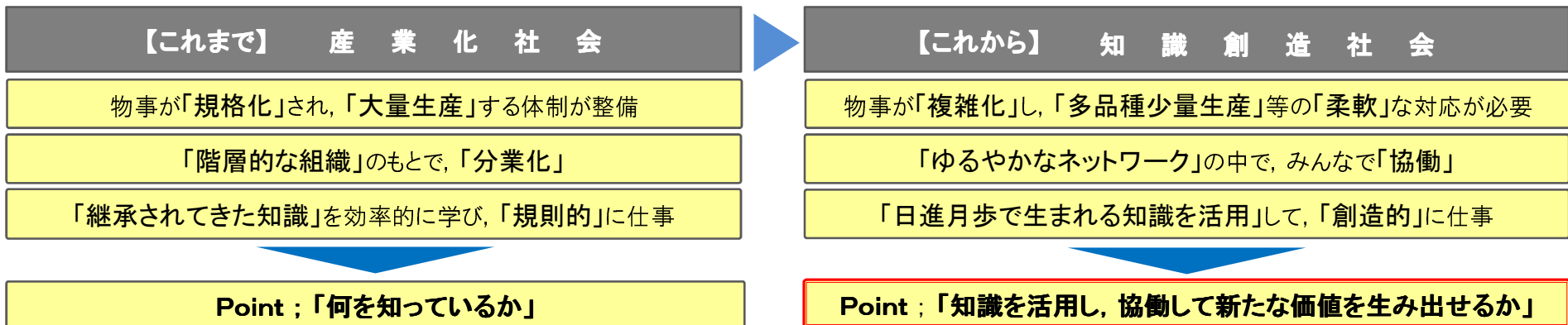
これからは、新しい知識・情報・技術が、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として、飛躍的に重要性を増すとともに、それらを駆使して新たな付加価値を生み出していく、いわゆる「知識創造社会」の時代に入

### 知識創造社会の特質

- ✓ 知識には国境がなく、グローバル化が一層進む
- ✓ 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる
- ✓ 知識の進展は旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要となる
- ✓ 性別や年齢を問わず参画することが促進される

【背景】  
情報通信技術(ICT)  
の目覚ましい発達

※パラダイムとは・・・ある時代や分野において支配的規範となる「物の見方や捉え方」

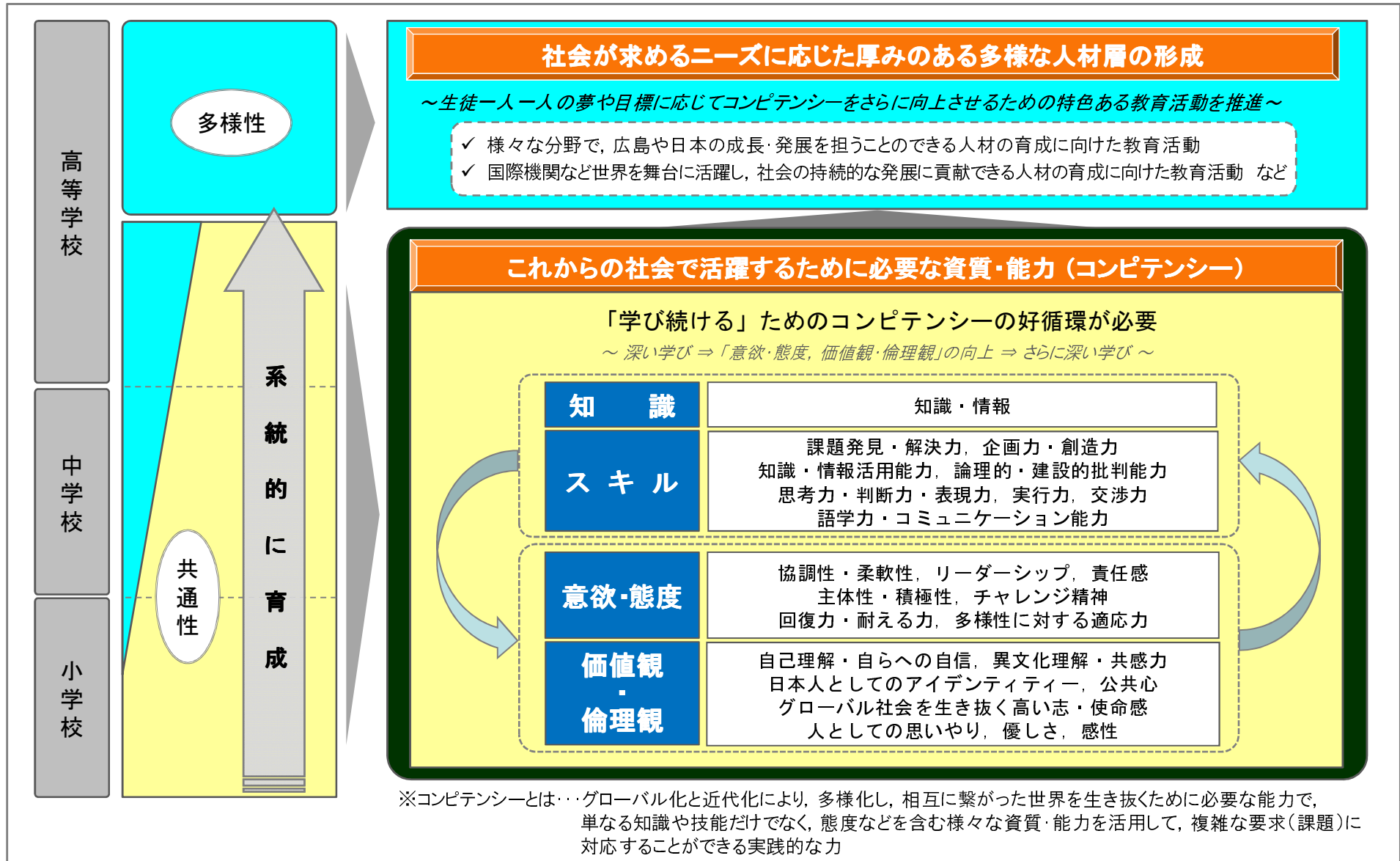


◆ このような「変化の激しい社会」では、学校で学んだ知識や技能を定型的に適用して解ける問題は少ない

- 問題に直面した時点で集められる情報や知識を入手し、自ら深く考え、それを統合して新しい答えを創り出す力が必要
- アイデア・情報・知識の交換や共有、アイデアの深化や答えの再吟味のために他者と協働・協調できる力が必須
- 協調的・創造的な問題解決のために、どのような分野においても「学び続ける力」が基礎となる



## <児童生徒に育成すべき資質・能力>



[参考；H20.1中央教育審議会答申]

高等学校の教育課程の枠組みは、高校生の興味・関心や進路等の多様性を踏まえ、必要最低限の知識・技能と教養を確保するという「**共通性**」と、学校の裁量や生徒の選択の幅の拡大という「**多様性**」のバランスに配慮する必要がある

## ＜広島版「学びの変革」－学び続ける力の育成－＞

これまでの『知識ベースの学び』に加え、『コンピテンシーの育成を目指した主体的な学び』を促す教育活動を積極的に推進する

### 知識ベースの学び

＜受動的＞

－知識の習得重視－

「何を知っているか」を重視



- 知識の習得 ⇒ ○
- 知識の活用 ⇒ △
- 学習意欲 ⇒ △

学力観

#### ＜知識伝達型＞

- 目標(知識)積み上げ方式
- － 知識伝達, 1時間完結, 個人の学び
- 各教科で縦割りの授業

授業観

### コンピテンシーの育成を目指した主体的な学び

＜能動的＞

－資質・能力(知識, スキル, 意欲・態度, 価値観・倫理観)の育成重視－

「知識を活用し, 協働して新たな価値を生み出せるか」を重視



【コンピテンシー4要素の向上】

- 「活用・協働」⇒ より深い知識の習得＋スキルの育成  
(思考力判断力表現力等)
- 「～できる」⇒ 学びに価値を認め, 意欲・態度が向上

#### ＜活用・協働・創造型＞

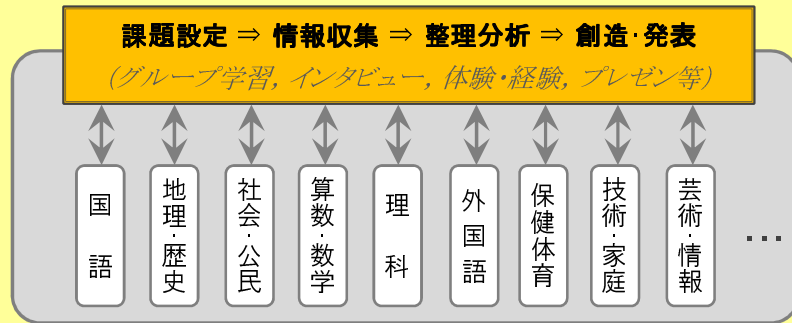
- 目標(~できる)から逆算した授業設計
- － 課題設定, 単元全体での学び, 協働的な学び・多様性の受容
- 各教科の枠を超えた授業(探究・創造)
- 実社会との繋がりを重視した体験的な学びを重視

## ＜これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した教育活動の方向性＞

- ◆ 児童生徒の主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」や「異文化間協働活動」を通して、次のような人材の育成を目指す
  - 自ら深く考え、自分の言葉で自分自身や広島・日本のことを語ることでできる自立した人材
  - 多様性を受け入れ、自信を持って異なる文化の人とコミュニケーションを取ることのできる人材
  - 様々な人々と協働して、答えのない諸課題に対し失敗を恐れず果敢に挑戦し続け、新たな価値を創造することのできる人材

### 課題発見・解決学習

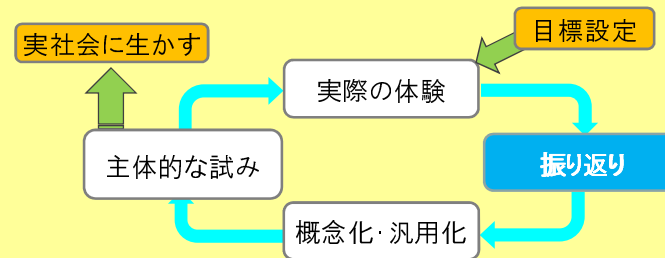
各教科で習得した知識やスキルを活用し、異なる価値観を持つ人々と協働して、答えのない問題から最善解を創造



※ 複雑化・高度化する実社会との繋がりを意識して児童生徒が自ら課題を設定

### 異文化間協働活動

自ら体験し、違いに気づき、多様性を受容する中で、グローバル・マインドを涵養し、実践的なコミュニケーション能力も向上



※ 体験を通して自分自身の行動や考えを深く振り返ることが重要

### 【系統的な取組イメージ】

区分	小学校	中学校	高等学校
ねらい	自分を知り、受け入れる 多様性に触れる	自分の意見を主張する 違いに気づき、多様性を受容する	地球的視野に立ち主体的に行動する
課題発見・解決学習 (テーマ事例)	地域の暮らしや伝統文化、諸課題など	広島伝統文化・歴史、諸課題など	日本の伝統文化・歴史、 地球規模の諸課題など
異文化間協働活動 (活動事例)	グローバル・キャンプなど (異なる文化の人と触れ合う)	グローバル・キャンプなど (異なる文化の人と共同体験)	姉妹校交流・海外留学 (異なる文化の人と協働体験)

## < 第2章 具体的な施策展開 >

---

# 概要

# 10年先を見据えた施策展開

これからの社会で活躍するために必要な資質・能力(コンピテンシー)の系統的な育成

施策1

育成すべき人材像の具体化

- ✓ 教職員・児童生徒による目標の共有化
  - 評価指標の研究開発

施策2

課題発見・解決学習の推進

- ✓ 主体的な学びを促す教育活動の実践
  - 実践事例の研究開発
  - 言語活動(ことばの教育)の充実

施策3

異文化間協働活動の推進

- ✓ 小・中学校段階での活動の推進
  - グローバル・キャンプなど国内での異文化間協働活動の機会の創出
- ✓ 高等学校段階での活動の推進
  - 短期留学プログラムの開発・提供
- ✓ 各学校の活動を支援する環境整備
  - 異文化間協働活動コーディネーターの育成・配置
  - 留学生・帰国生支援センターの設置・運営
- ✓ 実践的なコミュニケーション能力の育成
  - 英語教育の抜本改革(活用を通じた「使える英語」の修得)

厚みのある多様な人材層の形成

施策4

厚みのある多様な人材層の形成に向けた学校の体制整備

- ✓ 様々な分野で広島や日本の成長・発展を担うことのできる人材の育成
- ✓ 国際機関など世界を舞台に活躍し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成

施策5

教員の採用育成方針の整備

- ✓ コンピテンシーの育成を目指した教育を実践する教員に求められる資質・能力の明確化
- ✓ コンピテンシーの育成を目指した教授法の修得
  - 中核教員研修の実施
  - e-ラーニングを活用した研修システムの開発
- ✓ 教員のグローバル・マインドの涵養
  - 海外研修制度の開発
- ✓ 優秀な人材の確保に向けた仕組みづくり
  - 広島版「教員養成塾」の実施
  - 外国人・海外実務経験者等の積極的な採用

施策6

県全体の機運醸成

- ✓ コンピテンシーの育成を目指した教育に係る戦略的な啓発活動
  - 教育フォーラムの開催
- ✓ コンピテンシーの育成を目指した教育を推進する体制整備
  - 支援組織の構築
- ✓ 児童生徒や学校の主体的な活動の支援
  - 企業寄附による基金創設
  - 県民からの支援方策の検討

# 施策1 育成すべき人材像の具体化

概要

◆これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した教育活動を実践するための評価指標を開発し、教職員や児童生徒の間で目標の共有化を図る

## 現 状

✓ これからの変化の激しい社会で活躍するために必要な資質・能力(コンピテンシー)が明確になっていないため、教職員や児童生徒の間で、目標(育成すべき人材像)が共有できていない

## 10年後の目指す姿

➤ 各学校において、具体的な目標(育成すべき人材像, 必要となる資質・能力)を明確にし、主体的な学びを意識した系統的な教育活動が実践され、学校の教育活動全体を通して、必要な資質・能力が着実に向上している

### 取組のポイント

教職員・児童生徒による目標の共有化

### 具体的なイメージ

◆これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成の評価指標の研究開発

### <5年間のアクションプラン>

区分	H26	H27	H28	H29	H30以降
高校	研究開発(指定校)※先行実施	実践研究(指定校)			全県展開
中学校	調査研究	研究開発(指定校)	実践研究(指定校)		
小学校		研究開発(指定校)	実践研究(指定校)		
		研究開発(指定校)	実践研究(指定校)		

## 【参考】評価指標を活用した資質・能力の育成(イメージ)

- 学校の教育活動全体を通して育成すべき人材像を具体化 - 評価指標として「見える化」することで教職員・児童生徒の間で目標を共有化 -
  - 児童生徒は、自分自身を振り返るツールとして活用し、教職員は、自分自身の教育活動(教育効果)を振り返るツールとして活用
  - 児童生徒は、日々、行動と振り返り(自己評価)を繰り返し、教職員は、定期的に児童生徒の自己評価を確認し、児童生徒にフィードバック
- ※ コンピテンシーは、実際に行動し、振り返ることを通してのみ向上するもの

### 評価指標の例

～「キー・コンピテンシー」や「21世紀型スキル」等(P.30～33参照)の考え方を踏まえて、各学校において作成

評価規準	判定基準	レベル1	レベル2	レベル3
国際コミュニケーション		異なる背景や価値観を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図ることができる	傾聴を態度で示し、自己の意見を外国語で伝達できる	異なる背景や価値観を持つ人々と互いにwin-winの関係を築き、相乗効果を発揮できる
自己理解・自己管理		家庭、学校、地域における自分の役割を認識できる	失敗からも学ぶ意欲を見せ、教訓を活用できる	目標達成のために、自分の行動、環境を整備することができる
成果志向		自分に与えられた役割は責任を持って果たすことができる	困難な状況でも、主体的に問題を解決できる	主体性、チャレンジ精神、責任感を持ってPDCAを行い、成果を出すことができる
連携とネットワーク		自他のよさや個性を理解し尊重することができる	チーム内外にネットワークを構築することができる	協調性を持って、知識・情報の共有、協働、協力を行うことができる
個性と文化の尊重		グローバルな問題、異文化に関心を持つことができる	自己のアイデンティティを確立できる	自己のアイデンティティを基盤として、地球規模の問題を多角的に分析し、全ての人への貢献を考えることができる

※ 小・中・高の指定校での実践研究を通して、評価指標(ルーブリック等)のモデルを開発し、その開発に係るプロセスや活用方法等を全県に普及させる

### <学校の教育活動>

#### 授 業

- ✓ 各教科・科目
- ✓ 総合的な学習の時間 など

#### 異文化間協働活動

- ✓ グローバルキャンプ
- ✓ 姉妹校交流
- ✓ 海外留学 など

#### 特 別 活 動

- ✓ ボランティア活動
- ✓ 社会見学・職場体験
- ✓ インターンシップ など

※ 学習指導要領に基づく観点別評価を実施

評価の観点(基本)

…「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」

## 施策2 課題発見・解決学習の推進

概要

◆これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成に効果の高い「主体的な学び」を促進するため、総合的な学習の時間を始め、各教科等の学習において「課題発見・解決学習」を推進する

### 現 状

- ✓ 知識を活用して課題を解決するために必要となるスキル(思考力判断力表現力等)や学習意欲等に課題がある
- ✓ 総合的な学習の時間において、学校間・校種間の取組状況に差があり、小・中・高の系統的な取組が行われていない

### 10年後の目指す姿

- 小・中・高の各段階において、「課題発見・解決学習」を柱として、主体的な学びが促進され、課題発見・解決力、創造力、コミュニケーション能力をはじめとする児童生徒のコンピテンシーが着実に向上している

### 取組のポイント

児童生徒の主体的な学びを促す教育活動の推進

### 具体的なイメージ

◆小・中・高の系統的な「課題発見・解決学習」に係る実践事例の研究開発

〔テーマ事例〕

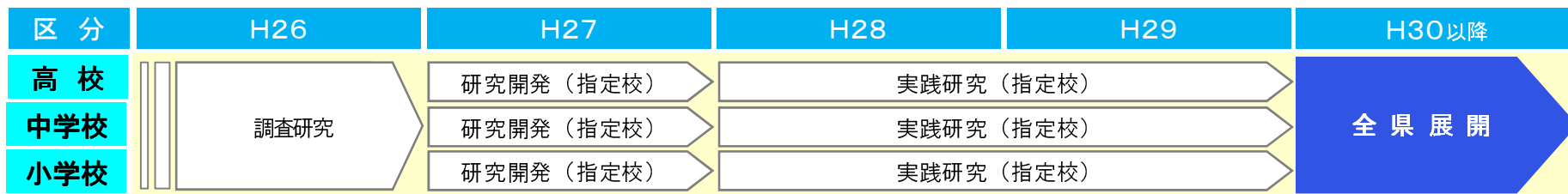
(小)地域の暮らしや伝統文化、諸課題など

(中)広島県の伝統文化・歴史、諸課題など

(高)日本の伝統文化・歴史、地球規模の諸課題など

- ◆言語活動(ことばの教育)の充実
- ◆実践事例を全県的に共有化する仕組みの構築〔⇒ 施策5〕
- ◆児童生徒が学習の成果を発表する機会の提供〔⇒ 施策6〕

### <5年間のアクションプラン>



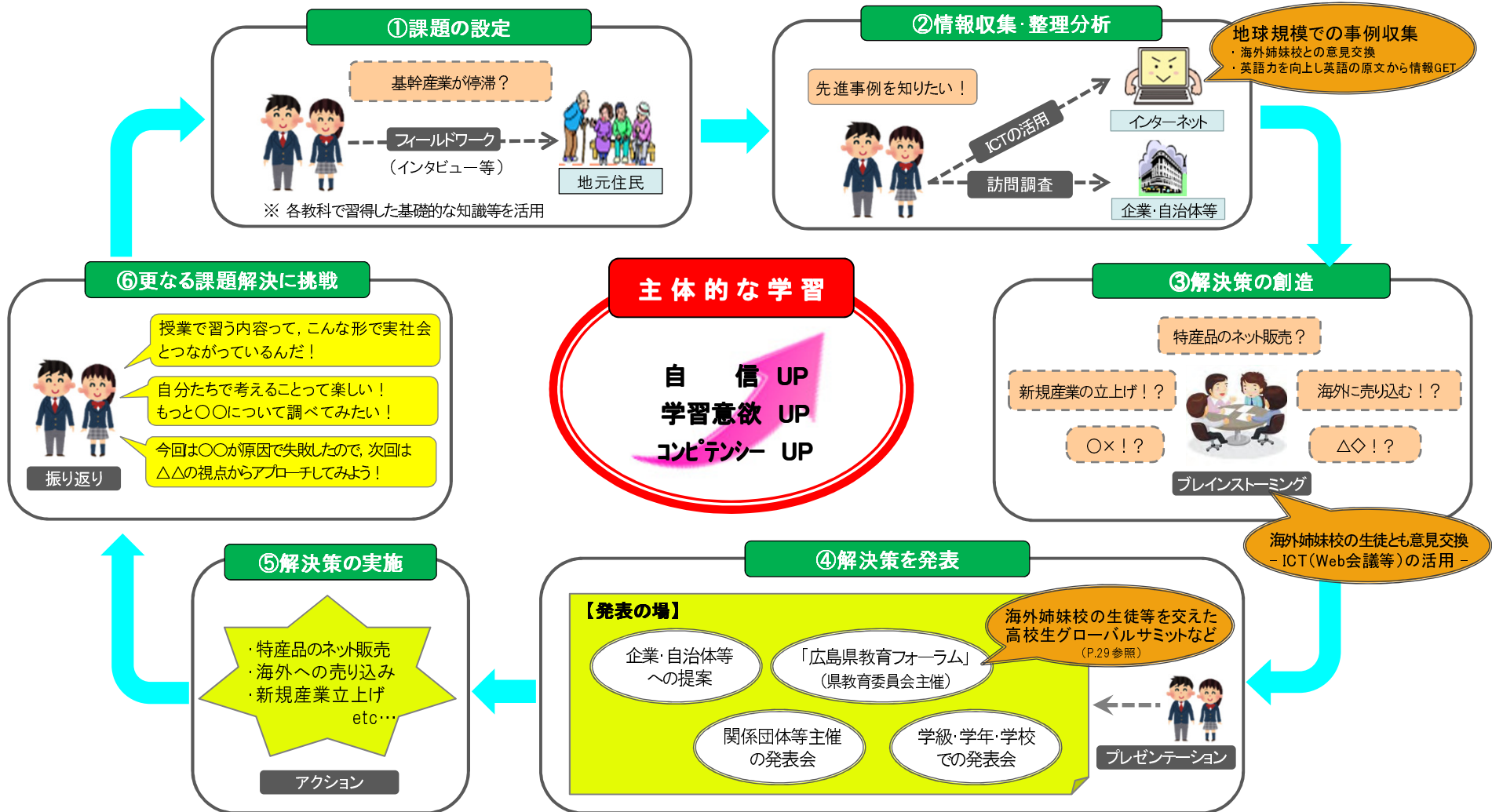


## 【参考】課題発見・解決学習(イメージ)

- 各教科で習得した知識やスキルを「活用」して、企業・大学・自治体・地域住民など多様な人々と「協働」し、現実社会の課題の解決策を「創造」
- 課題発見から解決策発表・実行までの主体的な学習活動を通して、児童生徒のコンピテンシーを育成

### ◀活動事例▶

学年(学級)の全体テーマ…地域の活性化 / グループ別の個別テーマ…地元の中山間地域に存在している現実の課題(例:産業、福祉、雇用、教育、インフラ整備…)



## 施策3 異文化間協働活動の推進

### 概要

◆これからの社会で活躍するためのベースとなるグローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力の育成に向けて、小学校段階からの系統的な「異文化間協働活動」を推進する

### 現 状

- ✓ 内向き志向が指摘され、留学者数は減少傾向
- ✓ 「異文化間協働活動」の機会が不足
- ✓ 姉妹校との交流ノウハウや留学プログラムが不足

### 10年後の目指す姿

- 各学校において「異文化間協働活動」が活発に行われ、高等学校段階で毎年1,000人以上の生徒が海外に留学するなど、グローバルな教育環境が整っている

	取組のポイント	具体的なイメージ
取組①	小・中学校段階での「異文化間協働活動」の推進	◆ グローバル・キャンプなど国内での「異文化間協働活動」の機会創出
取組②	高等学校段階での「異文化間協働活動」の推進	◆ 目的やレベルに応じた短期留学プログラムの開発・提供 (ex.「異文化間協働活動」、言語スキル修得、スポーツ交流、リーダー育成 etc...) )
取組③	各学校の活動を支援する環境整備	◆ 「異文化間協働活動コーディネーター」の育成・配置 (小・中学校支援) ◆ 「留学生・帰国生支援センター」の設置・運営 (高等学校支援)
取組④	実践的なコミュニケーション能力の育成	◆ 英語教育の抜本改革(活用を通じた「使える英語力」の修得)

### <5年間のアクションプラン>

区 分	H26	H27	H28	H29	H30以降
取組①	活動プログラムの開発	協力校での実践研究	本格運用	本格運用	本格運用
取組②	留学プログラムの開発	プログラムの運用 (留学者数の段階的拡大)	本格運用	本格運用	本格運用
取組③	コーディネーターの発掘・育成	試行運用	本格運用	本格運用	本格運用
	「留学生・帰国生支援センター」設置準備	試行運用	本格運用	本格運用	本格運用
取組④	カリキュラムの開発	実践研究 (指定校)	実践研究 (指定校)	実践研究 (指定校)	全県展開

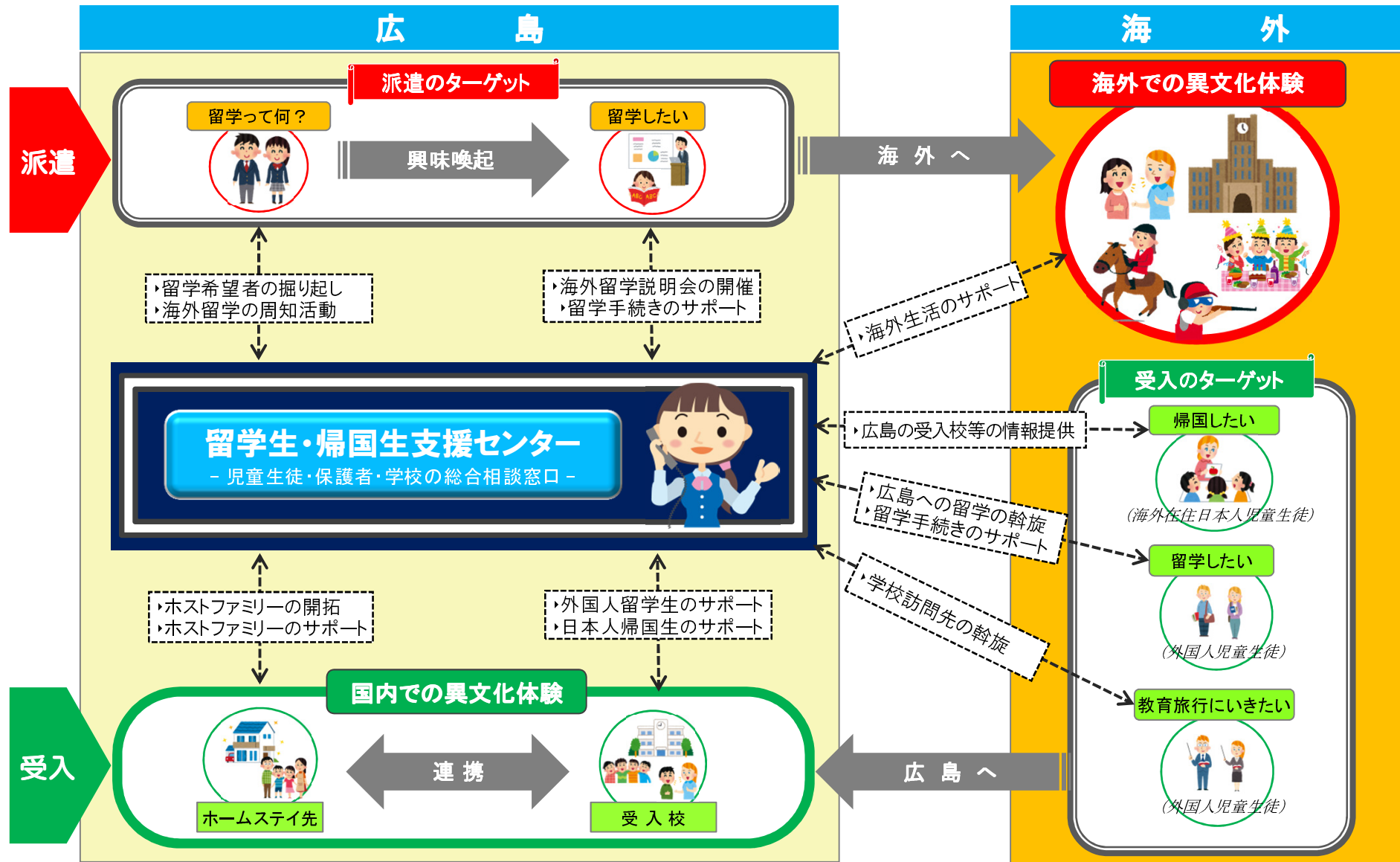
## 【参考①】小・中・高の系統的な異文化間協働活動(イメージ)

- ▶ 小・中学校段階では、グローバル・キャンプなど、多様性に触れ、それを受容する体験を通して、グローバル・マインドの素地を涵養
- ▶ 高等学校段階では、姉妹校との相互交流を深めるとともに、海外留学により、現地での異なる文化・生活習慣の体験や協働活動などを通して、グローバル・マインドをさらに向上



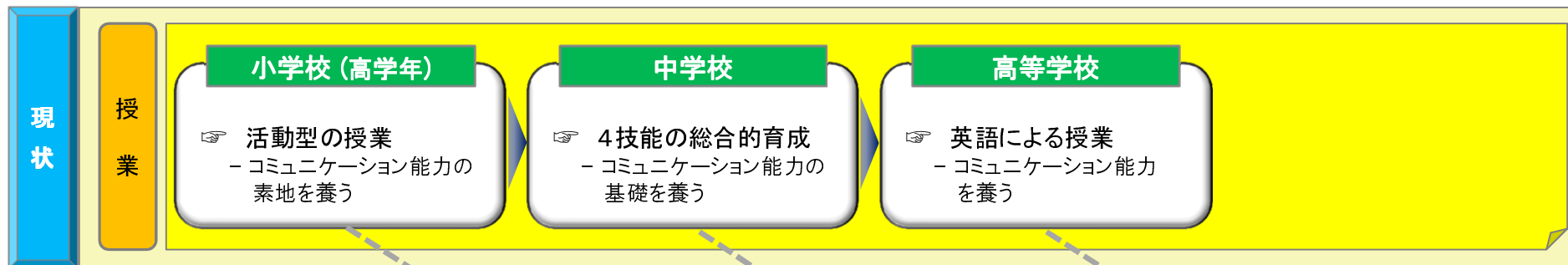
【参考②】留学生・帰国生支援センター（イメージ） - 広島と海外をつなぐ総合窓口 -

▶ 留学生の派遣・受入（海外姉妹校との交流，海外教育行政機関との協定ベースの交流 etc...），日本人帰国生の受入，教育旅行の誘致など，児童生徒の留学や帰国に関するサポート業務を一元的に管理する総合窓口を設置

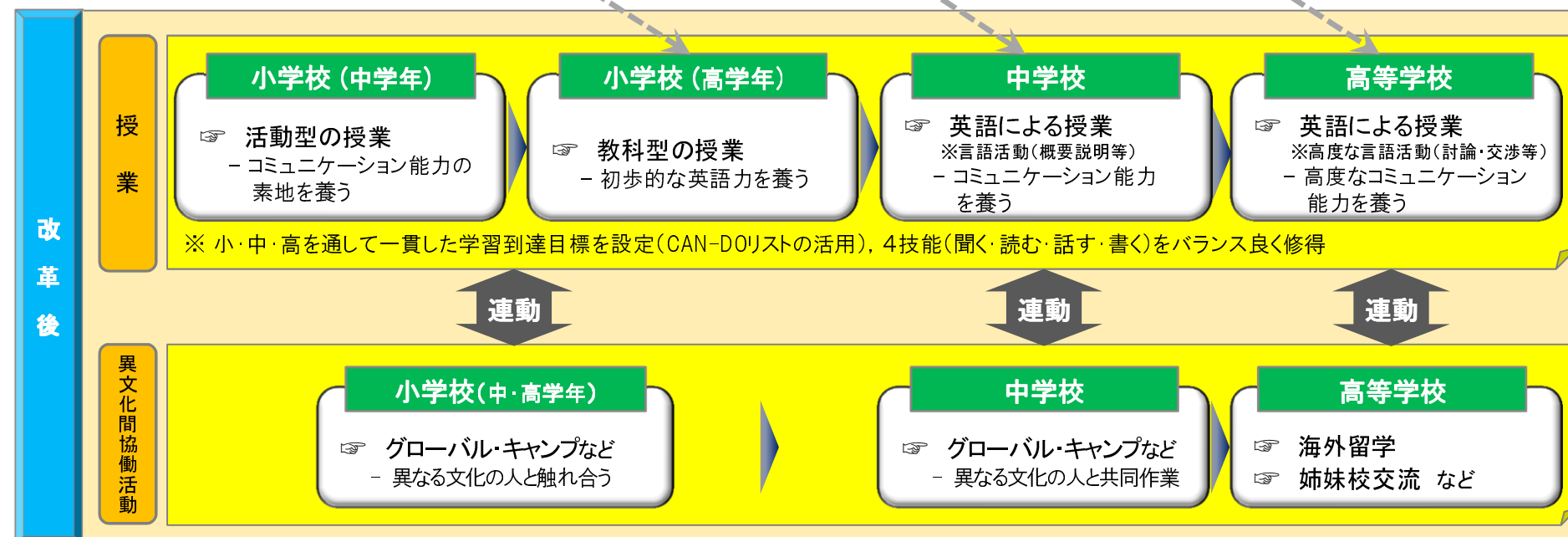


【参考③】英語教育の抜本改革(イメージ) - 活用を通じた「使える英語力」の修得 -

- 授業では、4技能の習得を目指し、小・中・高を通して一貫した学習到達目標を設定(CAN-DOリスト活用)するとともに、指導内容を拡充強化
- 授業で学んだスキルを異文化間協働活動において実際に活用することで、実践的なコミュニケーション能力を育成



使える英語力 ~4技能(聞く・読む・話す・書く)を兼ね備えた実践的なコミュニケーション能力~



## 施策4

# 厚みのある多様な人材層の形成に向けた学校の体制整備

概要

◆ 社会が求めるニーズに応じた厚みのある多様な人材層の形成に向けて、県立学校の体制整備を早急に進める

現状

✓ グローバル化の進展など変化の激しい社会で活躍できる人材の育成に向けた特色ある教育活動が十分に行われていない

10年後の目指す姿

➤ 社会が求めるニーズに応じて、広島や日本の成長・発展を担う人材から、世界を舞台に活躍する人材まで、厚みのある多様な人材層の形成に向けた教育環境が整備されている

取組のポイント

具体的なイメージ

取組	取組のポイント	具体的なイメージ
取組①	様々な分野で広島や日本の成長・発展を担うことのできる人材の育成に向けた学校の体制整備	ア 県内各地域のコンピテンシ育成教育推進の拠点となる併設型中高一貫教育校の設置 イ 複数の専門学科からなる専門高校の設置 ウ 従来の定時制・通信制課程の枠組みに捉われない学校(フレキシブルスクール(仮称))の設置 エ 地域の医療や教育を支える人材を育成する学校の整備(医師・教員類型の設置)
取組②	国際機関など世界を舞台に活躍し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成に向けた学校の体制整備	オ 従来の枠組みに捉われない突き抜けた教育(プロジェクト学習等)を实践する新たな中高一貫教育校の設置

### <5年間のアクションプラン>

区分	H26	H27	H28	H29	H30以降
取組①	ア	新たな併設型中高一貫教育校の設置(地域バランスを考慮し複数校設置)に向けて検討			
	イ	複数の専門学科からなる専門高校の新たな設置に向けて検討			
	ウ	西部フレキシブルスクール(仮称)の設置準備(教育課程編成、基本設計・実施設計、施設整備等) ----- 設置			
	エ	医師類型・教員類型(仮称)(北部)の設置に向けて検討			
取組②	オ	グローバルリーダー育成校(仮称)の設置に向けて検討 (教育プログラムの研究・開発、基本設計・実施設計、施設整備、教員・生徒募集等)			

# 【参考①】厚みのある多様な人材層の形成に向けた学校の体制整備関係

- これまで「併設型の中高一貫教育校」、「複数の専門学科からなる専門高校」、「単位制を活かした定時制高校」など、特色ある学校づくりを推進
- ますます変化・複雑化する社会のニーズに応じた厚みのある人材層の形成に向けて、生徒の多様性を踏まえた学校の特色化や教育の質的向上が急務

## これまで取り組んだ県立高等学校の特色づくり(主なもの)

### 【県立初の併設型中高一貫教育校】

[H16] 県立広島中・高等学校の設置 - 県立初の併設型中高一貫教育校 -

- ◆6年間の計画的・継続的な教育活動
  - <主な成果>
    - 生徒の授業満足度(高校) ; 90.9%(H25)
    - 難関大学等合格者数 ; 81人(H25)

### 【これまでの学科の枠を超えた専門教育の展開】

[H17] 県立総合技術高校の設置 - 複数学科の設置・総合選択制 -

- ◆設置学科;6学科
  - <主な成果>
    - 3年生の進路決定率 ; 98.7%(H25)
- ◆総合選択制・ミックスホームルーム
  - > 3年生で5つ以上の資格取得者 ; 86.0%(H25)
- ◆複数の分野の資格取得

### 【入学する生徒の多様化への対応(勤労青少年だけでなく、様々な事情を持つ生徒が入学)】

[H12] 県立芦品まなび学園高等学校の設置 - 定時制・普通科 昼夜間3部制 -

- ◆自分のライフスタイルに合わせた学習が可能(部超えた科目選択等)
  - <主な成果>
    - 入学者数の推移 ; 36人(H12) ⇒ 91人(H25)
    - 3年修業卒業割合 ; 43.8%(H18) ⇒ 62.3%(H25)
- ◆柔軟な単位認定
- ◆二学期制の導入(年2回の入学)

## これまでの取組の成果を踏まえ拡充するもの

併設型  
中高一貫教育校の設置

地域の学びの拠点として、県内全体の教育水準の向上に繋げる

複数の専門学科からなる  
専門高校の設置

複合化する産業を支える人材を育成する

## 新たな対策の必要性に対応するもの

- ・ますます多様化するニーズへの対応が必要
- ・定時制・通信制に進学する生徒の増加(ニーズの高まり)

フレキシブルスクール  
(仮称)の設置

多様な学びを提供し、社会的・職業的な自立のために必要な力を育成する

医師・教員類型の設置

地域の医療や教育を支える人材を育成する

グローバルリーダー育成校  
(仮称)の設置

新たな教育モデルを先導的に実践し、世界全体の発展を牽引する人材を育成する

医療や教育を支える人材が不足している地域への対応

### 《広島の国際的な役割への期待》

国際平和の拠点 → 97.3%  
国際交流の拠点 → 73.0%  
(※中国地方経済界への意識調査)

### 《国際機関等の日本人職員の状況》

国連関係機関の日本人職員割合 ; 約2.5%(8百人/全3万人)  
国連事務局の日本人職員数 ; 60人(望ましい職員数238人)

持続可能な社会を構築し、国際社会の平和と発展に貢献できる人材の育成が必要

“ 広島や日本の成長・発展を担う人材から、世界を舞台に活躍する人材まで ”

厚みのある多様な人材層を形成

## 【参考②】従来の定時制・通信制課程の枠組みに捉われない学校の設置(イメージ)

### フレキシブルスクール (仮称)

広島県・広島市がそれぞれ設置している高等学校定時制・通信制課程を、広島県・広島市が共同で、従来の定時制・通信制課程の枠組みに捉われない「フレキシブルスクール(仮称)」に再編整備する。

#### 設置場所

広島市立広島特別支援学校跡地(広島市中区大手町)

#### 開校時期

平成30年4月(予定)

#### 課程

- 《フレキシブル課程(仮称)》
- ・定時制・通信制課程, 単位制
  - 午前, 午後, 夜間の幅広い時間帯の授業の実施
  - 授業もしくは通信教育の中から教科・科目を自由に選択
  - 「平日登校コース(仮称)」と「通信教育コース(仮称)」の設置

#### 学科

- 《キャリアデザイン科(仮称)》
- ・生徒が自己の在り方・生き方や進路について考察し, 生徒自らの進路などに応じて適切な教科・科目を選択可能

#### フレキシブルな学びの実現

- ・生徒が自分のペースで学習できる仕組みの提供
- 2年間で単位を修得し, 留学やインターンシップを行うことも可能

#### 基礎的な学力・コミュニケーション能力の向上

- ・個に応じたきめ細かな学習指導の実施
- ・ソーシャルスキルトレーニングの実施

#### 自己実現を図るための生徒指導の充実

- ・個に応じた指導体制の構築
- チューター制度の導入
- ・相談体制の構築
- 生徒が安心して通学できる居場所づくり, 生徒の心のケア

#### キャリア教育の推進

- ・ガイダンス機能の充実
- 生徒自ら進路を考察し, それに応じた教科・科目を選択できる力の育成
- ・奉仕活動等の体験的な活動

#### 教育支援スタッフの充実

- ・スクールカウンセラー, スクールソーシャルワーカー等を配置
- ・多様なキャリアカウンセリングのための体制整備

#### 地域との連携(開かれた学校づくり)

- ・学校, 家庭, 地域社会, 行政が一体となった教育の実現
- ・地元企業, 地域住民など地域の教育資源の活用



【参考③】国際機関など世界を舞台に活躍し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成に向けた学校(イメージ)

**グローバルリーダー育成校 (仮称)**

**School mission**  
 ≪学校の使命≫

**持続可能な社会を構築し、国際社会の平和と発展に貢献できる人材の育成**

～ 人類の共存共栄に向けて、答えのない諸課題に対し、失敗を恐れず果敢に挑戦し続けることのできるグローバル・リーダーを育てる ～

**広島県独自の教育プログラム - 中高6年間一貫教育 -**

【コア・カリキュラム】

**国際機関等と連携した「広島と世界をつなぐプロジェクト学習」**

～ UNITAR/UNESCO/OECDなど ～

**広島の強みを生かした体験活動**

～ 世界遺産 瀬戸内海 ものづくり産業の集積 復興の歴史 伝統文化など ～

【ベース・カリキュラム】

**国際バカロレア導入検討**



**教育環境**

**多様性の創出**

～ [生徒] 1/3は外国人・[教職員] 全世界公募  
 (多国籍～アジア中心) ～

**全寮制**

～ 国境を越えた友情と強い絆の形成 ～

**自然豊かな学習環境**

～ 健全で逞しい心と体の育成 ～

“広島に対する深い愛着”とともに、世界の舞台で通用する“高度な資質・能力(論理的思考・表現力, 課題発見・解決力など)”を育成

**<目指す進学先(通過点)>**

～ 国際機関等に人材を多く輩出している大学(院)など ～

[例]

Columbia University Harvard University  
 Georgetown University University of Oxford  
 London School of Economics and Political Science etc...

**<将来の活躍ステージ>**

～ 世界を舞台に活躍し、社会の持続的な発展に貢献 ～

◆ 国際機関の職員, 国際NGOの職員, 社会的起業家,  
 新たな価値を創造するビジネスリーダーなど  
 [国際機関の例] UNICEF(国連児童基金), OECD(経済協力開発機構),  
 UNESCO(国連教育科学文化機関), WB(世界銀行) etc...

**<波及効果>**

～ イノベーションを生み出す環境創出 ～

- ✓ 国際平和拠点としての広島ブランドの向上
- ✓ 国内外の優秀な人材の集積・定着
- ✓ 国際機関や大学等の誘致に向けた環境作り

**広島県が目指す「学びの変革」のモデルとして、グローバルリーダー育成校(仮称)が担う「4つの役割」**

**I. 多様性の確保**

～ アジアを中心に様々な国から生徒を受入 ～

**III. コンピテンシーベースの教育モデルの構築**

～ 国際機関等で活躍するために必要な力を育む, 実践的なプロジェクト学習を展開 ～

**II. 格差の改善**

～ 家庭の経済状況に関わらず, 高い志を持つ生徒のチャンスを拡大 ～

**IV. 県全体への波及**

～ 先導的な取組のノウハウを国公私を越えて共有し, 県全体の教育水準を向上 ～

## 施策5 教員の採用育成方針の整備

概要

◆ これからの社会で活躍するために必要な資質・能力(コンピテンシー)の育成を目指した教育の実践に向けて、教員の採用育成方針の抜本的な見直しを行う

現 状

- ✓ コンピテンシーの育成を目指した教育を実践する教員に求められる資質・能力が不明確である
- ✓ コンピテンシーの育成を目指した教育に対応した教員の採用育成方針が整備されていない

10年後の目指す姿

- 教員が学び続けることのできる環境が整備され、主体的な学びを促す教授法やグローバル・マインドを兼ね備えた日本一の教員集団が、コンピテンシーの育成を目指した教育を着実に実践している

取組のポイント		具体的なイメージ
取組①	コンピテンシーの育成を目指した教育を実践する教員に求められる資質・能力の明確化	◆ キャリアステージに応じて教員が身に付けるべき資質・能力と研修との関係を整理
取組②	コンピテンシーの育成を目指した教授法の修得	◆ 中核教員研修の実施 (学校全体でコンピテンシーの育成を目指した教育を実践する体制づくり) ◆ e-ラーニングを活用した新たな研修システムの開発・導入 (理論や実践事例をネット上で共有化-教員が学び続ける知のプラットフォーム構築-)
取組③	教員のグローバル・マインドの涵養	◆ 外国の教育行政機関との協定を活用した海外研修制度の開発・導入
取組④	優秀な人材の確保に向けた仕組みづくり	◆ 大学生等をターゲットにした広島版「教員養成塾」の実施 ◆ 外国人・海外実務経験者・留学経験者等の積極的な採用

### <5年間のアクションプラン>

区分	H26	H27	H28	H29	H30以降
取組①	コンピテンシー再整理	本 格 運 用			
取組②	ノウハウ蓄積	中 核 教 員 研 修 実 施			
		e-ラーニング環境整備・実践事例の集積	試 行 運 用	試 行 運 用	本 格 運 用
取組③	研修プラットフォーム開発	試 行 運 用	本 格 運 用		
取組④		大学等との調整	広 島 版 「 教 員 養 成 塾 」 開 催		
		外 国 人 等 の 特 別 選 考 実 施 ( 順 次 拡 大 )			

## <コンピテンシーの育成を目指した教育(施策1～4)の実践に向けた教員の採用育成方針>

	ね ら い	研 修 関 係		採 用 関 係
		ターゲッ	対 策	
施策1	教員の意識改革 (コンピテンシーの育成を目指した教育活動)	全ての教員 (小・中・高)	指定研修 <sup>※1</sup>	【教員養成関係】 ・大学生等対象の広島版「教員養成塾」実施 ・県内大学の教員養成課程への指導主事講師派遣 ・教員養成課程を持つ大学との連絡協議会開催
施策2	コンピテンシーの育成を 目指した教授法の修得 ～主体的な学びの促進～	指導主事&中核教員 (小・中・高)	中核教員研修	
施策3	グローバル・マインドの涵養	指導主事&中核教員 (小・中・高)	海外研修	【採用要件改善】留学経験等を評価 【特別選考実施】大学等留学生, JICA等海外経験者
	英語教育改革 <sup>※2</sup> に対応した 教授法の修得	英語科の指導主事&中核教員 (中・高)	海外大学派遣研修 (英語教員推進リーダー研修)	【採用要件改善】外部英語試験スコア活用 【特別選考実施】ALT等の外国人
		全ての英語科教員 (中・高)	指導力向上研修	【採用要件改善】外部英語試験スコア活用
施策4	国際的な教育プログラムの 教授法の修得	指導主事&中核教員 (中・高)	海外大学・先進校等派遣 IBワークショップ・勉強会 <sup>※3</sup>	【特例選考対応】世界トップクラスの実践経験者等
	多様な人材層の形成に向けた 教員の専門性の確保	—	—	【特別選考実施】大学等の研究者
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 教員が自ら学び続けることのできる環境の整備 ～ e-ラーニングを活用した新たな研修システムの開発・導入 ～</li> <li>➤ キャリアパスを見据えた戦略的かつ計画的な採用・育成の仕組みの構築</li> </ul>			

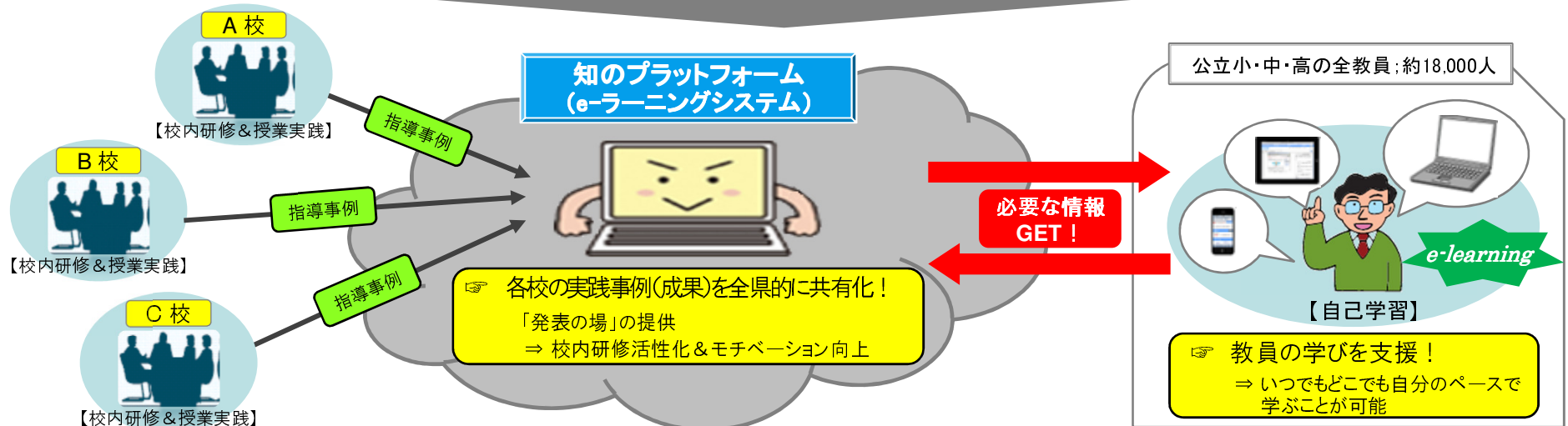
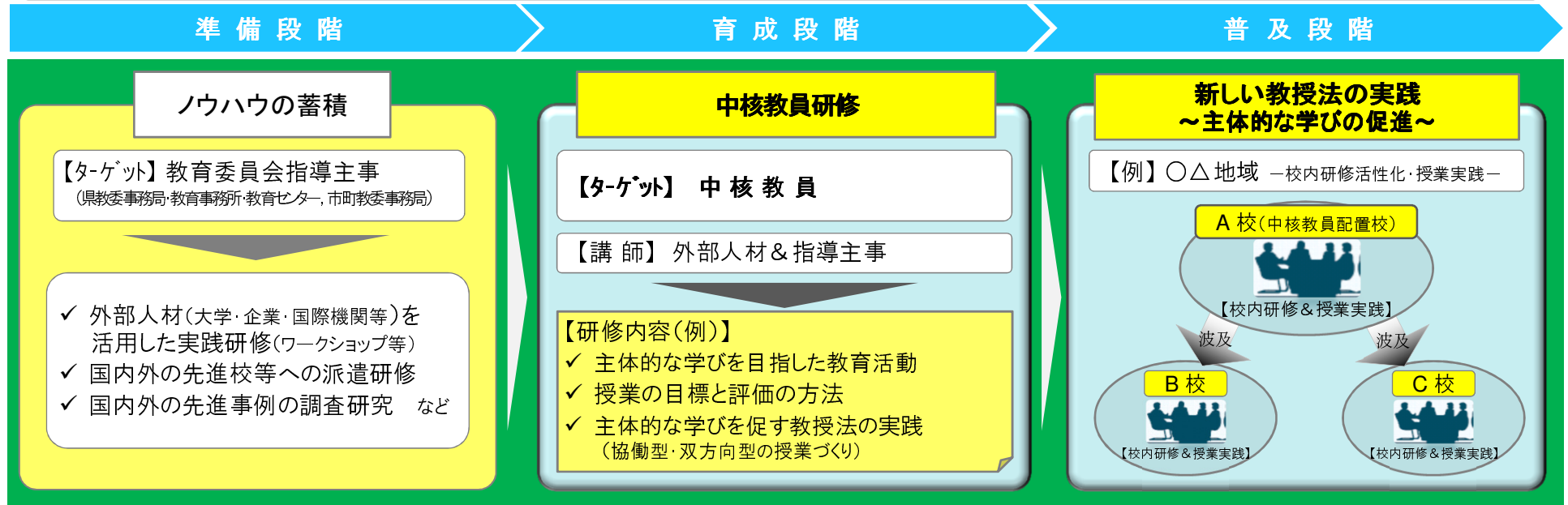
※1 「指定研修」…経験年数研修(初任者・2・3・6年目・10年経験者), 主任研修, 管理職等研修(管理職・主幹教諭・指導教諭)

※2 「英語教育改革」…小学校; 中学年～活動型(週1～2コマ程度), 高学年～教科型(週3コマ程度) / 中学校; 授業を英語で行うことを基本 / 高等学校; 授業を英語で行うとともに言語活動を高度化  
現行の学習指導要領を改訂し, H32から全面实施(小学校はH30から段階的に先行実施) - H25.12文部科学省「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」より -

※3 「IB」…国際バカロレア機構(International Baccalaureate Organization)が実施する国際的な教育プログラム  
我が国は, 国内のIB認定校をH30までに200校(H26.4現在19校)に大幅に増加させる目標を掲げている - H25.6閣議決定「日本再興戦略 - JAPAN is BACK -」より -

# 【参考①】 コンピテンシーの育成を目指した教授法の修得 - 教員が学び続けることのできる環境の構築 -

- 各地域の中核となる教員を「主体的な学びを目指した教育を推進するリーダー(中核教員)」に指定し、集中的に実践研修を実施
- 中核教員が自校をはじめとする地域内の学校の校内研修等で、新しい教授法を実践し、各学校における主体的な学びを促進
- 各学校での実践事例をネット上で全県的に共有化し、時間や場所を選ばず学ぶことができる「e-ラーニングシステム」を整備



## 【参考②】グローバル・マインドの涵養 - 中核教員及び指導主事を対象とした海外派遣研修 -

- 中核教員や指導主事をメインターゲットに、新たな海外派遣研修制度(外国の教育行政機関との協定ベース)を開発・導入するとともに、他の機関が実施する既存の海外派遣研修制度も最大限に活用

### <新たな海外派遣研修プログラムの開発>

名称	主催	派遣先	期間	研修内容	備考
広島県教員海外派遣研修【長期】	広島県教育委員会	教育交流協定の締結地域等	約1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 現地大学教員養成課程の受講</li> <li>➤ 現地学校での授業実践 等</li> </ul>	—
広島県教員海外派遣研修【短期】	広島県教育委員会	教育交流協定の締結地域等	約1ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 現地学校での授業見学</li> <li>➤ 現地教員や生徒との交流</li> <li>➤ 教育施設の視察 等</li> </ul>	—

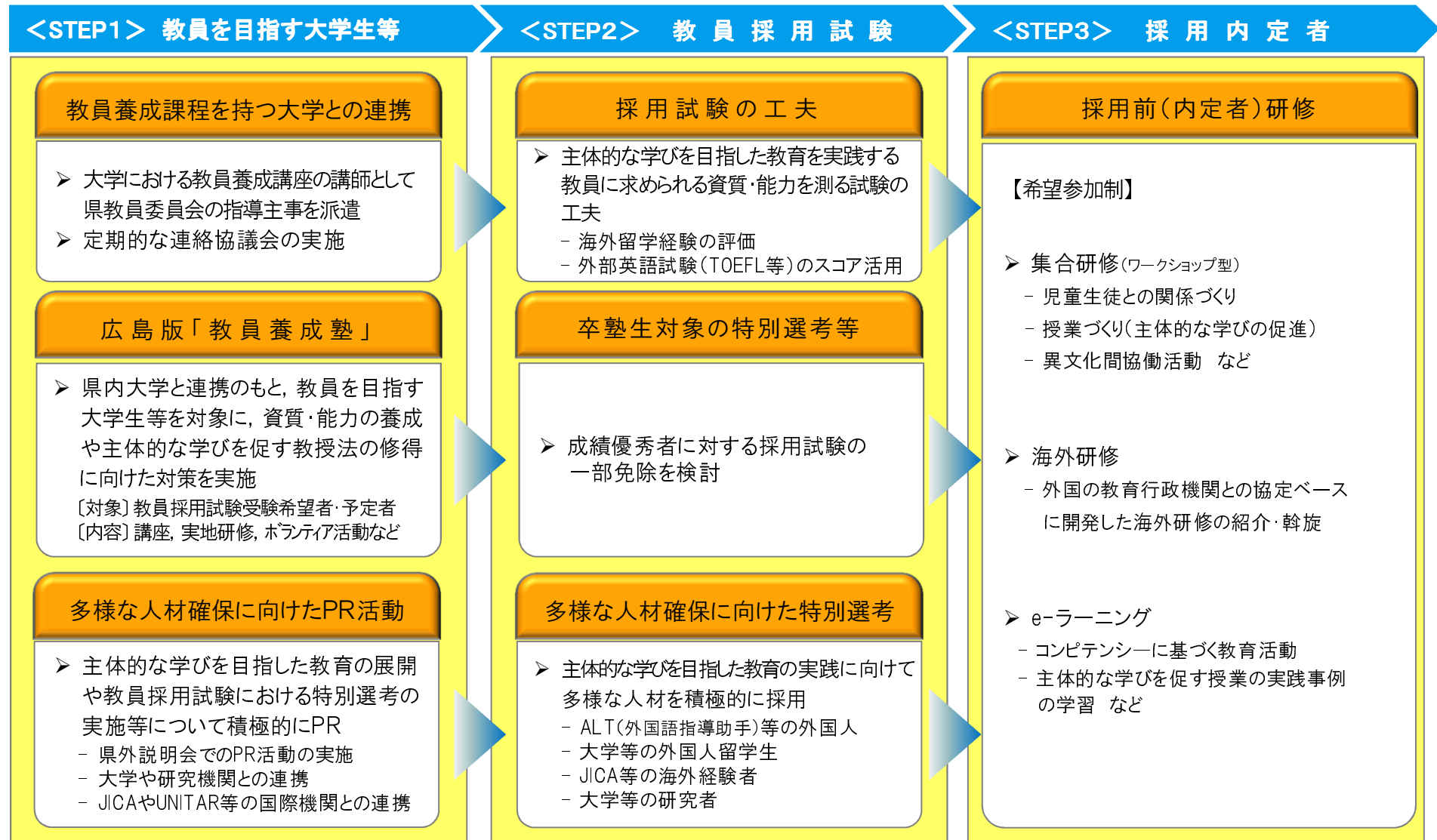
### <既存の海外派遣研修の活用(主なもの)>

名称	主催	派遣先	期間	研修内容	備考
ESD日米教員交流プログラム	(公)ユネスコ・アジア文化センター	アメリカ	約16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 学校やESD関連機関の訪問</li> <li>➤ 米国教員との合同会議</li> </ul>	主催機関の全体枠 24名程度/年
JICA中国教師海外研修	(独)JICA中国	開発途上国など	約7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 現地の学校訪問及び生徒との交流</li> <li>➤ JICA技術プロジェクト現場視察</li> <li>➤ 青年海外協力隊現場視察 等</li> </ul>	主催機関の全体枠 8名程度/年
教育課題研修指導者海外派遣プログラム	(独)教員研修センター	イギリス, オーストリア, ドイツ, フィンランド, ニュージーランド, オランダ, デンマーク, オーストラリアなど	約11日～17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 教育委員会, 教育行政機関等の訪問</li> <li>➤ 学校等の訪問</li> </ul>	主催機関の全体枠 300名程度/年
カンボジア復興支援プロジェクト	広島県地域政策局平和推進プロジェクトチーム	カンボジア	約14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 教育専門家として現地教育機関での授業研究を指導</li> <li>➤ 実験器具や教材の作成を支援</li> </ul>	主催機関の全体枠 2名程度/年

※ 海外姉妹校との教員相互派遣の拡充も検討

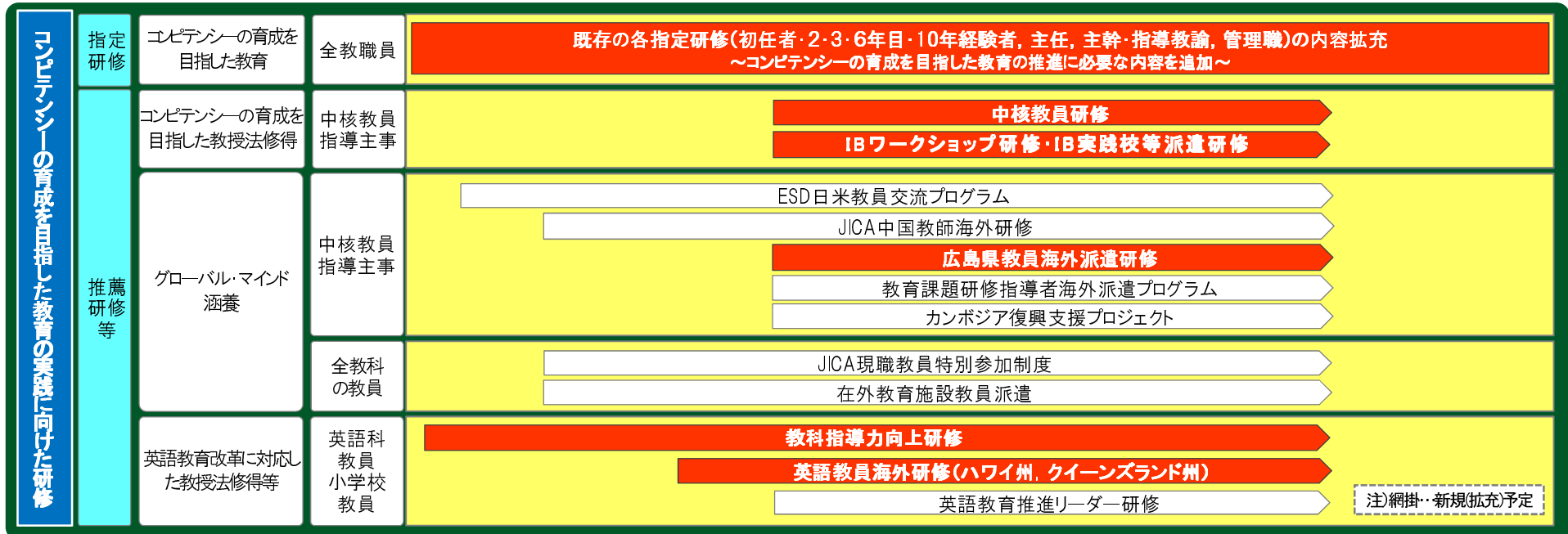
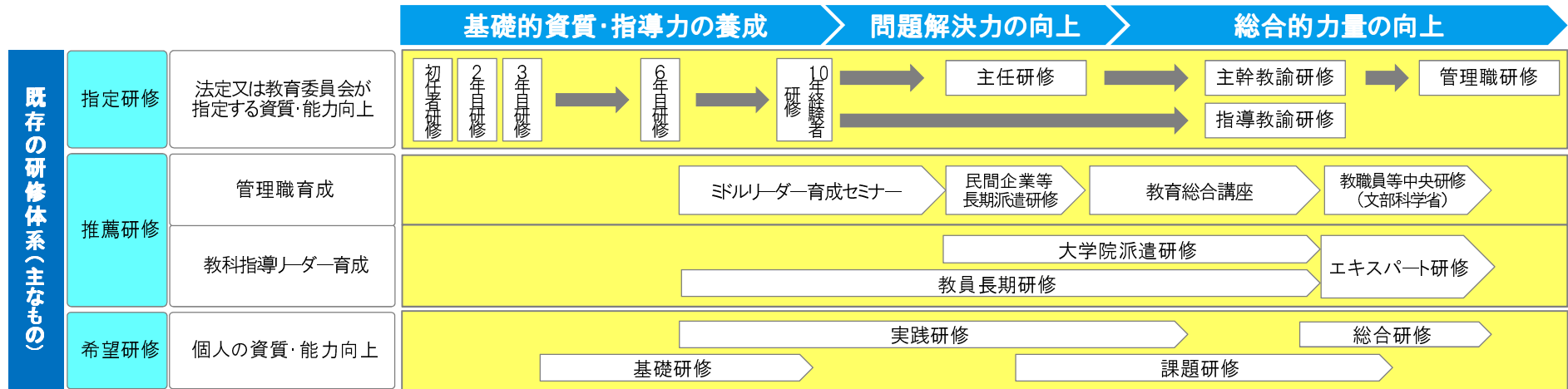
## 【参考③】優秀な人材を確保する仕組み(イメージ)

- 教員を目指す大学生等, 教員採用試験, 採用内定者に対する「スリーステップ」の仕掛けにより, 広島県で展開するこれからの社会で活躍するために必要な資質・能力(コンピテンシー)の育成を目指した教育について, 新規採用1年目から実践することのできる優秀な教員を確保



## 【参考④】キャリアパスを見据えた研修体系の見直し(イメージ)

- 「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力(コンピテンシー)の育成を目指した教育」を実践する教員に求められる資質・能力を明確にするとともに、既存の研修体系をベースに、コンピテンシーの育成を目指した教育の実践に向けた研修を拡充強化し、キャリアパスを見据えた戦略的かつ計画的な人材育成の仕組みの構築を目指す



# 施策6 県全体の機運醸成

概要

◆県民総ぐるみで児童生徒や学校の新たな挑戦を応援していくため、県全体の機運醸成を図る

## 現 状

- ✓ これからの社会の変化に対応した新しい教育の在り方について、県民に理解・啓発を図る機会がない
- ✓ 児童生徒や学校の新たな挑戦を応援する仕組みが整っていない

## 10年後の目指す姿

- 県全体でこれからの社会で活躍するために必要な資質・能力(コンピテンシー)の育成を目指した教育を推進する運動が展開され、児童生徒や学校への支援がイノベーションを生み出す源泉となっている

	取組のポイント	具体的なイメージ
取組①	コンピテンシーの育成を目指した教育への保護者・地域・企業関係者等の理解を図るための戦略的な啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コンピテンシーの育成を目指した教育の理解を図るフォーラムの開催 (有識者講演, 高校生グローバルサミット, 学習成果の発表 etc...) )</li> <li>◆学校だよりや広報誌等を活用した保護者等への取組紹介</li> </ul>
取組②	個人・企業・団体を問わず、県全体でコンピテンシーの育成を目指した教育を推進する体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆官民を超えた教育推進の支援組織を構築 (応援隊の結成, 産官学コンソーシアムの構築 etc...) )</li> </ul>
取組③	児童生徒や学校の主体的な活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆企業からの寄附による基金創設(コンピテンシーの育成を目指した教育活動支援)</li> <li>◆県民から広く支援を募る方法の検討(寄附, 税制度 etc...)</li> </ul>

## <5年間のアクションプラン>

区分	H26	H27	H28	H29	H30以降
取組①		「ひろしま教育の日」教育フォーラム (有識者の講演)			教育フォーラム (学習成果の発表等)
取組②		支援組織の仕組みを検討	支援組織の構築	試行支援	本格支援
取組③		基金設立準備	基金積立		本格運用
		効果的な資金集めの戦略検討	資金集め準備	試行運用	



## 【参考】 広島県教育フォーラムの開催(イメージ)

- シンポジウムや児童生徒の学習発表を通して、コンピテンシーの育成を目指した教育に対する県民の理解を深める
- 海外生徒を交えた地球規模の課題に対する議論・提言を通して、国際協力や平和貢献への意識を深める
- 学習成果発表を通して、児童生徒の学習意欲の向上を図るとともに、その成果を産業や地域に還元する

### 広島県教育フォーラム

#### <シンポジウム>

- 有識者による基調講演や、教員・保護者・企業関係者等によるパネル・ディスカッション

#### 【例】

- ✓ 社会の変化に対応した新しい教育の必要性など

- ◆ 保護者・地域・企業関係者等のコンピテンシーの育成を目指した教育への理解

#### <高校生グローバルサミットの開催>

- 海外の高校生と地球規模の課題について議論し、一つの提言を発表

#### 【例】

- ✓ 平和貢献, 環境問題, エネルギー開発, 防災など

※ 協定を締結している自治体(クイーンズランド州, 台湾桃園県)や, 姉妹校の生徒を招待

- ◆ 国際協力や平和貢献への意識の深まり

#### <児童生徒の「課題発見・解決学習」の成果発表>

- 企業や地域が設定したテーマについて、児童生徒が課題を発見し、解決策を提案
- 優秀な提案を表彰  
(企業や地域のアイデア採用につなげる)

#### 【例】

- ✓ 耕作放棄地での養蜂を活かした雇用の創出
- ✓ 売れ残った果実をスイーツに加工
- ✓ 牛を世話する際に衣服に染み付く臭いを消すスプレーづくり

※ 地球規模で先進事例を収集し, 海外でも使える解決策を創造

- ◆ 表彰等により児童生徒の学習へのモチベーションが向上
- ◆ 保護者は子どもの学習成果を確認
- ◆ 学習成果を産業や地域に還元

コンピテンシーの育成を目指した教育の推進に向けた支援の拡大

児童生徒や学校の主体的な活動を支援する資金の充実

# 参考①

## これまで提言されてきた「育成すべき資質・能力」

近年、世界各国において、今日的に育成すべき人材像をめぐり、断片化された知識や技能ではなく、人間の全体的な能力をコンピテンシーとして定義し、それをもとに目標を設定し、政策をデザインする動きが広がっている

### 生きる力 [H8]

国際化や情報化の進展など、変化が激しい時代にあって、いかに社会が変化しようとも必要な能力

#### 知・徳・体のバランスのとれた力

現在の学習指導要領のベース

##### 確かな学力

- ◆ 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

##### 豊かな人間性

- ◆ 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など

##### 健康・体力

- ◆ たくましく生きるための健康や体力

- 中央教育審議会答申 [H8.7]  
「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」 -

### キー・コンピテンシー [H14]

グローバル化と近代化により、多様化し、相互に繋がった世界において、人生の成功と正常に機能する社会のために必要な能力

#### 言語や知識、技術を相互作用的に活用する能力

- ◆ 言語・シンボル・テキストを活用する能力
- ◆ 知識や情報を活用する能力
- ◆ テクノロジーを活用する能力

#### 多様な集団における人間関係形成能力

- ◆ 他人と円滑に人間関係を構築する能力
- ◆ 協調する能力
- ◆ 利害の対立を御し、解決する能力

#### 自律的に行動する能力

- ◆ 大局的に行動する能力
- ◆ 人生設計や個人の計画を作り実行する能力
- ◆ 権利・利害・責任・限界・ニーズを表明する能力

これらの核となる「思慮深く考える力」

- OECD「コンピテンシーの定義と選択」(DeSeCo)まとめ [H15] -

## 人間力 [H15]

社会を構成し、運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力

### 知的能力的要素

基礎学力、専門的な知識・ノウハウを持ち、自らそれを継続的に高めていく力  
それらの上に応用力として構築される論理的思考力、創造力 など

### 社会・対人関係力的要素

コミュニケーションスキル、リーダーシップ、公共心、規範意識、他者を尊重し、切磋琢磨しながらお互いを高めあう力など

### 自己制御的要素

上記の要素を十分に発揮するための意欲、忍耐力、自分らしい生き方や成功を追及する力など

- 内閣府「人間力戦略研究会」まとめ [H15.4] -

## 社会人基礎力 [H18]

職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要となる基礎的な能力

### 前に踏み出す力 <アクション>

主体性、実行力、働きかけ力

### 考え抜く力 <シンキング>

課題発見力、計画力、創造力

### チームで働く力 <チームワーク>

発信力、柔軟性、規律性、傾聴力、状況把握力、ストレスコントロール力

- 経済産業省「社会人基礎力に関する研究会」まとめ [H18.2] -

## 基礎的・汎用的能力 [H23]

社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力

### 人間関係形成・社会形成能力

他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等

### 自己理解・自己管理能力

自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等

### 課題対応能力

情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等

### キャリアプランニング能力

学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等

このほか、社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力として

- ◆ 基礎的・基本的な知識・技能
- ◆ 論理的思考力、創造力
- ◆ 意欲・態度、勤労観・職業観等の価値観
- ◆ 専門的な知識・技能

- 中央教育審議会答申 [H23.1]

「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」-

## 21世紀型スキル [H22]

情報があふれる「21世紀の社会」で働くために必要な力

### 思考の方法

創造性(イノベーション),  
批判的思考・問題解決・意思決定, 学習能力

### 取組の方法

コミュニケーション, コラボレーション(チームワーク)

### 学習・作業ツール

ICT活用, 情報リテラシー

### 生活していくためのスキル

市民性(地域・地球規模), 人生・キャリア設計,  
個人的責任・社会的責任

### 実践に向けて

問題解決のための協働, ICTリテラシー

- ATC21s(欧米の政府・大学・産業界による国際プロジェクト)まとめ [H22] -

## グローバル人材の概念 [H24]

グローバル人材の概念を整理すると、概ね次のような要素が含まれる

### 要素1

語学力・コミュニケーション能力

### 要素2

主体性・積極性, チャレンジ精神  
協調性・柔軟性, 責任感・使命感

### 要素3

異文化に対する理解  
日本人としてのアイデンティティー

社会の中核を支える人材に共通して求められる資質

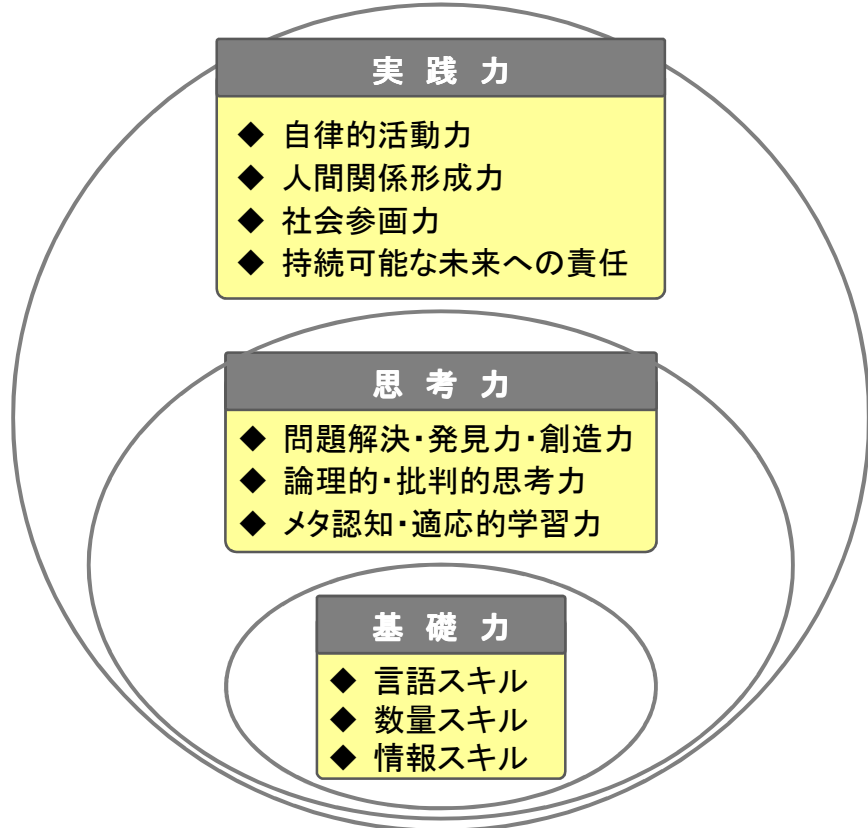
- ◆ 幅広い教養・深い専門性
- ◆ 問題発見・解決能力
- ◆ チームワークとリーダーシップ
- ◆ 公共性・倫理観, メディア・リテラシー等

- 国家戦略室「グローバル人材育成戦略」[H24.6] -

## 21世紀型能力 [H25]

「21世紀を生き抜く力を持った市民」として日本人に求められる能力

「思考力」を中核 ⇒ それを支える「基礎力」と使い方を方向付ける「実践力」

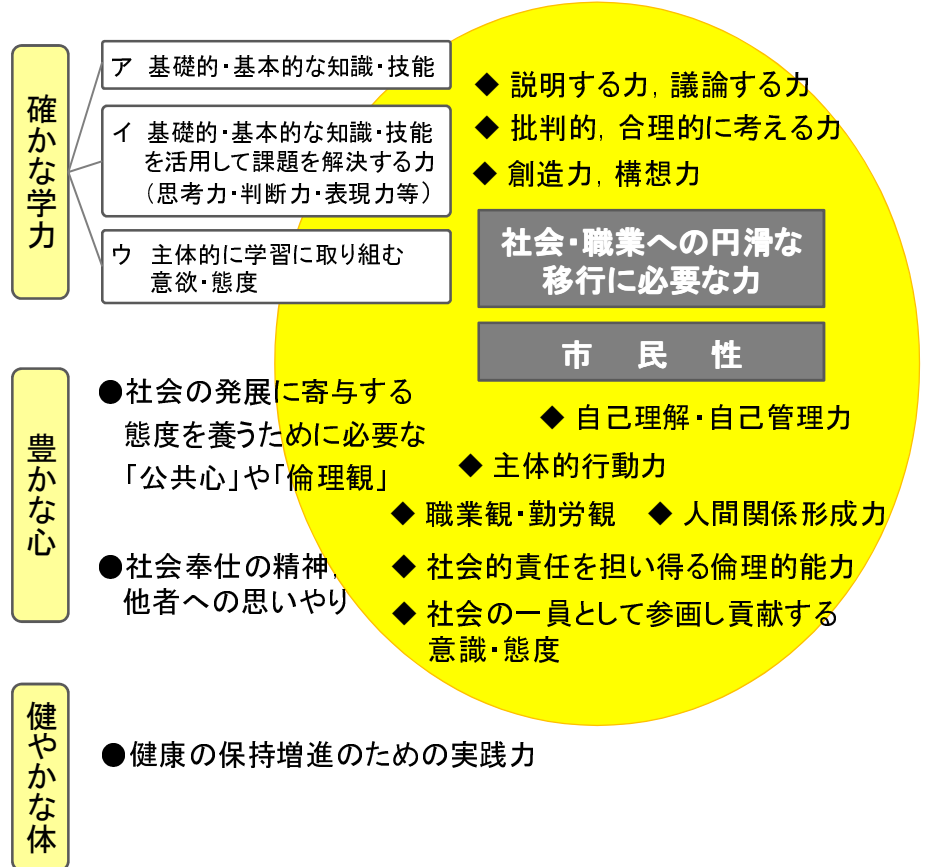


これまで日本の学校教育が培ってきた資質・能力を踏まえつつ、それらを「基礎」「思考」「実践」の観点で再構築した日本型資質・能力の枠組み

- 国立教育政策研究所まとめ [H25.3] -

## コアを構成する資質・能力 [H26]

高校教育において全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力



- 中央教育審議会 初等中等教育分科会  
高等学校教育部会まとめ [H26.3]  
「高校教育の質の確保・向上に向けて」-

該当ページ	用語	解説	出典
P.6	コンピテンシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>単なる知識や技能だけでなく、態度などを含む様々な心理的・社会的なリソース（主体性・積極性・協調性・協働力・回復力など）を活用して、複雑な要求（課題）に対応することができる実践能力や行動特性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>OECDにおける『キー・コンピテンシー』について（文部科学省）</li> </ul>
P.8	グローバル・マインド	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球規模の広い視野で情報を捉え、文化や価値観の違いを認識し、自分自身の信念や価値観を明確にしなが、多様な人と協働できる倫理観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル・マインド養成講座（日本経済新聞社）</li> </ul>
P.9	e-ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコンやインターネットなどのIT技術を活用し、学習者がどこにいても主体的な学習を行うことができるシステム</li> <li>学習者はインターネットを通じて学習教材に接続し、人またはコンピューターと双方向コミュニケーションを行いながら学習することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-ラーニング白書2008年版（経済産業省）</li> </ul>
P.13	フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室の外で行う調査・研究、実地研究、野外調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大辞林第三版（三省堂）</li> </ul>
P.13	ブレインストーミング	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が自由に多くの意見を出し合うことによって独創的なアイデアを引き出す集団思考法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大辞林第三版（三省堂）</li> </ul>
P.28	コンソーシアム	<ul style="list-style-type: none"> <li>共通の目標に向かって結集した、2つ以上の個人、企業、団体、政府（あるいはこれらの任意の組合せ）から成る団体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大辞林第三版（三省堂）</li> </ul>